

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは2月27日(金) 9:00現在  
※休日の実績は前営業日

		2月26日現在	3月の予想		(月末値)	
USD	ドル・円 (円)	156.13	148.0	~	160.0	155.0
	消費税減税の財源確保目途が立つか焦点					
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	1.180	1.15	~	1.21	1.18
	ユーロ・円 (円)	184.19	177.0	~	188.0	182.9
ECBは依然政策金利据え置きとの見方が優勢で、ユーロは底堅い						
GBP	ポンド・ドル (ドル)	1.348	1.32	~	1.37	1.35
	ポンド・円 (円)	210.50	205.0	~	212.0	209.3
英中銀は利下げ見込みであり金融政策格差から対円、対ドルで軟調推移を予想						
AUD	豪ドル・円 (円)	110.94	107.0	~	111.5	108.0
	NZドル・円 (円)	93.31	91.0	~	94.0	92.0
豪中銀タカ派継続で豪ドル堅調、NZ中銀慎重でNZドル重く						
株式相場	日経平均 (円)	58,753	55,000	~	60,000	60,000
	主要イベント通過で材料難も、業績改善期待は強い下値は底堅かろう					
	NYダウ (ドル)	49,499	48,000	~	51,000	50,000
一部テックとバリュー株中心に上昇を想定する						
長期金利	日本 (%)	2.158	2.00	~	2.20	2.10
	春闘を踏まえて日銀の利上げ期待が維持され長期金利は横ばい					
	米国 (%)	4.004	3.80	~	4.40	4.10
足元は理論値近辺も関税政策で諸外国の反発を招けば上方に乖離する可能性						

## ◆ 今月の注目ポイント

### 食品消費税ゼロ公約と日米金融政策の焦点

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
日本財政	◎	【特別国会審議動向】食品消費税0% (2年限定) 公約を巡る議論が焦点。高市首相は実現に向け意欲を示し、夏前の中間まとめ・早期法案提出を目指す姿勢。ただ、財源は赤字国債に頼らず補助金・租特見直しなどで確保する方針を強調しており、野党調整や制度詳細次第で難航も予想される。マーケットは財政規律の緩みへの警戒感が根強く、自民大勝後も長期金利上昇圧力は残存。実現確度が高まれば、日本財政への懸念再燃で円売り・金利上昇リスクが強まる。一方、高市首相が財政規律のメッセージを発信すれば、金利低下のきっかけに。
日米金融政策	○	【FOMC(18日)/日銀会合(19日)]FOMCは堅調な米経済指標に加え、関税効果によるインフレ警戒から、パウエル議長任期中 (5月まで) の追加利下げ観測が後退。利上げ可能性すら一部で言及されている。一方日銀も過度な円安が抑制され、利上げを急ぐ状況にはなく現状維持見通しが大勢。一方4月利上げ織り込みは相応に高いことから、4月利上げ観測を植田総裁が追認するかが市場の注目点となる。

## ◆ アジア通貨見通し

	2月26日現在	3月の予想		(月末値)	
人民元・円	22.81	22.00	~	23.00	22.50
バーツ・円	5.017	4.80	~	5.05	4.90
ルピア・円	0.932	0.88	~	0.94	0.90

## ◆ 今月の重要日程

2日(月) 日 氷見野日銀副総裁講演	19日(木) 日 日銀金融政策決定会合
5日(木) 中 全人代開幕	19日(木) 英 BOE金融政策委員会
6日(金) 米 雇用統計	19日(木) 欧 ECB理事会
11日(水) 米 2月CPI	19日(木) - 日米首脳会談
17日(火) 豪 RBA理事会	24日(火) 日 2月全国CPI
18日(水) 米 FOMC	30日(月) 日 日銀主な意見

### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

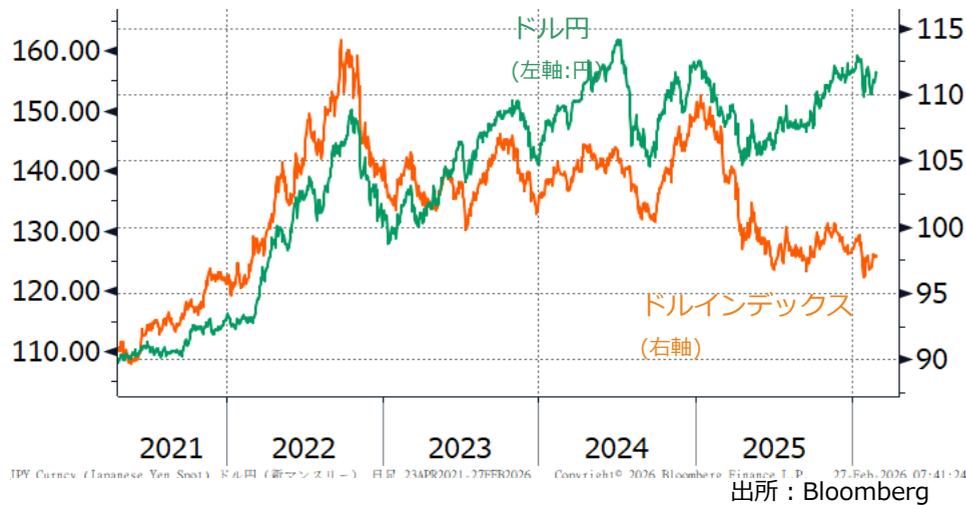
◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

### ドル 円



米ドル円

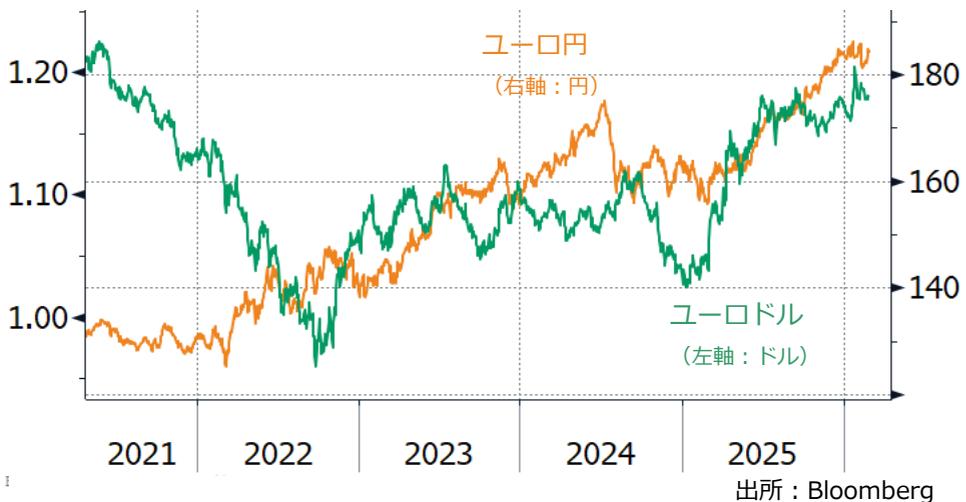
**148.00 – 160.00円**

#### 消費税減税の財源確保目途が立つかが焦点

2月のドル円は、157円台まで上昇したのち、152円台まで急落する変動の大きな相場となり、月足では小幅な円安での着地となった。8日投開票の衆議院選挙に向けて円安株高の流れとなったが、衆議院選挙は自民党が単独で全議席の3分の2を獲得するなど与党の圧勝という結果に終わり、与党以上に財政拡張色の強い野党の政策案が実現する確度は低下した。そのため、過度な財政拡張懸念は後退し、弱めの米経済指標に端を発したドル全面安も相俟って円売りが巻き戻された。月末にかけては、強めの米経済指標の公表が相次いだことや原油高などを受けて再び円売りドル買いが優勢となった。

3月のドル円は、150円台半ばを中心とする値動きを想定するが、消費税減税及び給付付き税額控除に関する議論の行方が重要視されよう。うち消費税減税について高市首相が標榜する通り特例国債発行なしでの財源確保見通しが立つなど、一定程度財政に配慮する方向となれば過度な財政懸念は後退しよう。なお、急激な円安方向へのリバウンドがあれば160円に到達せずとも為替介入が実施される可能性は引き続き考えられ、その場合は一時的に150円を割り込む展開も想定する。

### ユ ー ロ



ユーロドル

**1.15 – 1.21ドル**

ユーロ円

**177.00 – 188.00 円**

#### ECBは依然政策金利据え置きとの見方が優勢で、ユーロは底堅い

2月のユーロは、対ドル対円ともに横ばい圏での着地となった。対ドルでは、概ね1.18ドル前後で推移したものの、米国の消費関連指標が一部弱含んだことを受け、上旬にはドル売りが優勢となって一時1.19ドルまで上昇する場面があった。対円は、ドル円と概ね連動した動きとなり、衆議院選挙前に185円を回復したのち衆議院選挙後は円高が進行して一時181円台をつけた。

3月のユーロは、対ドルでは引き続き底堅い推移が続くとみる。1月ユーロ圏CPIは2%割れとなったが賃金見通しは底堅く、ECBは政策金利据え置きを継続する算算が大きい。対してFRBは今後も利下げに慎重な姿勢を示すと考えられるものの26年第2四半期までに1回の利下げを行うと予想する。これらを踏まえると、FRBの利下げ vs ECBの金利据え置きという構図が今後も続くため、ユーロは底堅い展開が継続しよう。対円については、ドル円に連動した値動きを想定しており、消費税減税議論の行方に依るところが大きいものの、為替介入への警戒感が上値を抑えよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

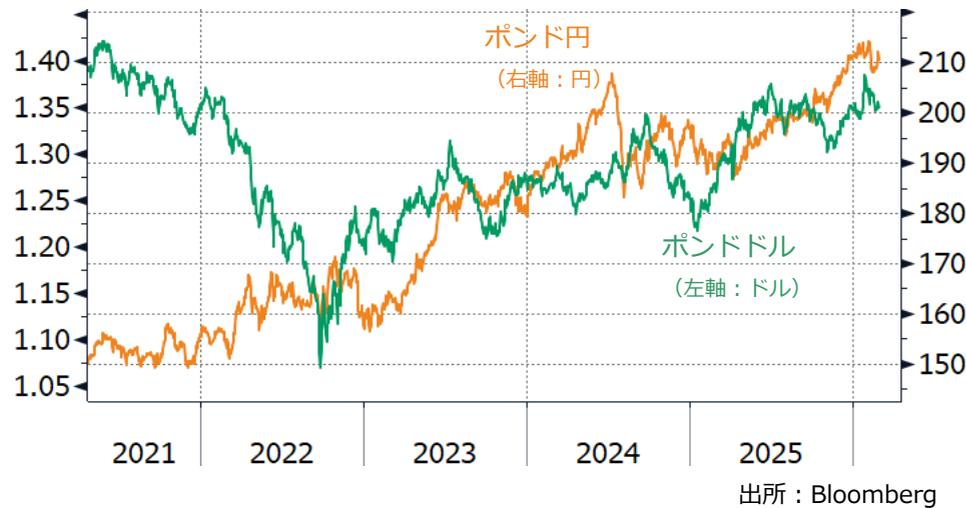
◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

### ポンド



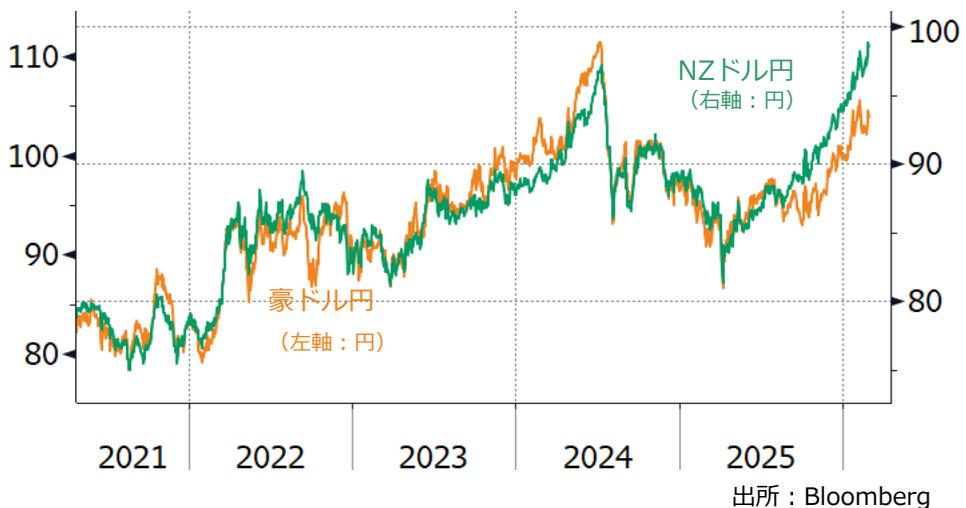
ポンドドル	1.32 – 1.37ドル
ポンド円	205 – 212円

#### 英中銀は利下げ見込みであり金融政策格差から対円、対ドルで軟調推移を予想

2月の英ポンド相場は、対ドル、対円で軟調に推移した。背景としては経済指標の弱さが挙げられる。失業率は11月5.1%から12月5.2%に上昇し、賃金は11月4.6%から12月4.2%に鈍化。CPIも12月3.4%から1月3.0%に鈍化するなど景気の減速傾向が鮮明となった。これを受けて3月の利下げ観測は月初の20%から80%近くに高まっており、英ポンドは軟調に推移した。対円でも日米協調によるレートチェックの影響もあり、円高が進行し、英ポンドには重石となった。

3月の英ポンド相場は引き続き対ドル、対円相場で軟調推移を予想する。3/19の英中銀会合では足もとの経済情勢を踏まえ利下げが実施される可能性が高いであろう。先行きについても引き続き利下げスタンスが維持される可能性が高い。3月は中銀会合ラッシュであるが、FRBは利下げには依然慎重。日銀は3月会合は利上げ見送りとなるが、4月会合に向けての地ならしは進められよう。金融政策格差から対円、対ドルで上値の重い展開が予想される。

### 豪ドル・NZドル



豪ドル円	107.00 – 111.50円
NZドル円	91.00 – 94.00円

#### 豪中銀タカ派継続で豪ドル堅調、NZ中銀慎重でNZドル重く

2月は対円で豪ドルが底堅く推移した一方、NZドルは上値の重い展開となった。豪ドルは月初にRBAが0.25%利上げを決めたことを受けて上昇し、豪ドル円は一時111円近くまで買われた。自民党が2月総選挙で圧勝したことで円高圧力が高まり上げ幅を縮小する場面もあったが、インフレ警戒から追加利上げ観測根強く、一時的な調整に留まった。一方NZドルは豪ドルに追随して月初に95円台を回復する場面も見られたものの、衆院選後の円高進行で失速。その後2月NZ中銀会合で、当面の緩和スタンス継続を明確に示し、豪ドル比での上値の重さが際立った。

3月のオセアニア通貨は中銀スタンスの差が拡大する見通しで、豪ドル円は底堅く推移、NZドル円は上値の重い展開が続く公算が大きい。豪中銀は強い経済指標とインフレ高止まりを受けタカ派スタンスを維持する一方、NZ中銀は景気回復途上を理由に早期引き締めへ慎重。日銀は4月会合に向けた地ならしを進めつつ、財政懸念が円の重石となる公算。豪ドル円は徐々に下値を切り上げやすい一方、NZドル円の戻りは限定的となる。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

### 株式見通し



NYK Index (日経平均株価) 株式見通し 日足 23APR2021-27FEB2026 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 27-Feb-2026 07:41:32  
出所：Bloomberg

日経平均

**55,000 – 60,000円**

#### 決算、選挙と主要イベント通過で材料難も、業績改善期待は強い下値は底堅いとみる

衆議院解散選挙は、株式市場に融和的な与党が大勝した他、決算も底堅く、主要イベントを株式市場にとってベストな形で通過したため、日経平均株価は6万円に迫っている。割高感も意識されるものの、先々の業績改善期待を踏まえ、売り材料も乏しい他、急ピッチで上昇してきたことを考えると、下落局面で押し目買いを狙う投資家も相応にいとみられる。イベント通過に伴う利益確定売りや押し目買いが交錯し、横ばい圏で推移するとみる。

NYダウ

**48,000 – 51,000ドル**

#### 一部テックとバリュー株中心に上昇を想定する

一部の空売り投資家が、飛躍した論理によってAIバブルを警告しているが、エヌビディアの決算は堅調そのものであった。ハイパースケーラーの過剰投資やSaaSの死が実現するならば、少なくともAI半導体供給側にとってはポジティブであろう。また、全体としてはテック株を中心に、リスク回避姿勢が根強いとみられ、引き続き出遅れ感のあるバリュー株にも資金が流入しよう。一番のリスクは関税政策への不透明感。場合によっては諸外国からの反発を招き、リスク回避姿勢を強めかねない。

### 長期金利見通し



GJCB10 Index (日本国債10年) 長期金利見通し 日足 16SEP2020-27FEB2026 Copyright© 2026 Bloomberg Finance L.P. 27-Feb-2026 07:41:24  
出所：Bloomberg

日本国債10年

**2.00 – 2.20%**

#### 日銀の利上げ期待が維持され長期金利は2.1%近辺で横ばい程度か

24日に公表される2月分CPIではインフレ率の低下が続く見込みであるものの、3月中旬に予定されている春闘の第1回集計で賃上げの順調さが確認されれば日銀の利上げ期待は維持されるだろう。また、春闘結果を見据えて、19日に予定されている日銀金融政策決定会合で、前回会合で利上げを提案した高田審議委員に賛同するメンバーが出てくれば、次回利上げに対する機運が高まる。長期金利は政策金利の1.5%超を織り込んだ2.1%程度での推移が続くようだ。

米国債10年

**3.80 – 4.40%**

#### 足元は理論値近辺も関税政策で諸外国の反発を招けば上方に乖離する可能性

米金利は4.00% – 4.20%程度がファンダメンタルズに基づく理論値である。足元の米金利は、概ね理論値と整合的。一時は理論値を上振れていたが、米国債の代替となっていた貴金属市場がボラタイルなこと等から、米国債が再び買われている様だ。米金利は、ファンダメンタルズよりも需給の重要性が相対的に増している。貴金属市場は徐々に落ち着きを取り戻しており、トランプ大統領が関税政策で諸外国の反発を招くようだと、上昇するリスクがある。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/2/27

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

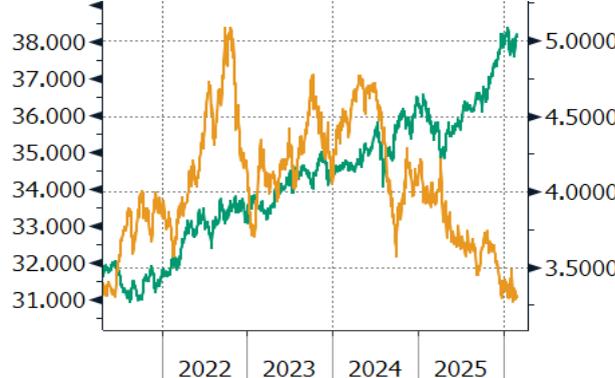
## ◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		3月の予想		見通し
中国	人民元/円	22.00	～ 23.00	<b>米中両国の膠着が続きドル/人民元は概ね横ばい</b> 中国では5日から全人代が開幕する予定になっているものの、昨年の中央経済工作会議で目新しい政策軸が打ち出されなかったことから、大規模な経済対策がここで公表されるのかは微妙な所だ。また、米国では18日（日本時間19日早朝）にFOMCが開催されるが、米経済が順調であること、インフレへの警戒が解けないことから、政策は据え置かれるだろう。米中両国での政策膠着が続き、中でドル/人民元は概ね横ばいの推移となるだろう。
	ドル/人民元	6.85	～ 7.00	
タイ	バーツ/円	4.80	～ 5.05	<b>政治安定効果が一巡し、当局介入警戒強まり軟調推移を予想</b> 2月のバーツ相場は月初に売られる場面も見られたが、8日の総選挙でアヌティン首相率いる与党「タイの誇り党」が圧勝し、政治安定化への期待からバーツは対ドルで急伸。対円では自民党の衆院選大勝による円高圧力も、バーツの基調強含みから一時的な調整に留まった。3月は選挙後の政治安定でバーツは対ドルで高値圏を維持しているものの、当局のバーツ高牽制続く中、これまでの資本流入規制強化の効果もあり、軟調推移を予想する。
	ドル/バーツ	30.5	～ 32.5	
インド	100ルピア/円	0.88	～ 0.94	<b>当局はルピア安定を重視し、3月も利下げを見送り、ルピア相場には下支えとなろう</b> 2月のルピアは対ドルで調整色を強めた。しかし、2月インドネシア中銀会合で5会合連続の金利据え置きを決め、中銀総裁がルピアが「過小評価されている」とコメント。今後通貨ルピアの安定に焦点をあてる方針を示したことで、対ドルでの下げ幅を縮小。3月は対ドル、対円で底堅い展開を予想。依然為替市場が不安定であり、当局はルピアの安定を優先に運営する方針。3月もインドネシア中銀は利下げを見送り、ルピア相場には下支えとなろう。
	ドル/ルピア	16,600	～ 17,000	

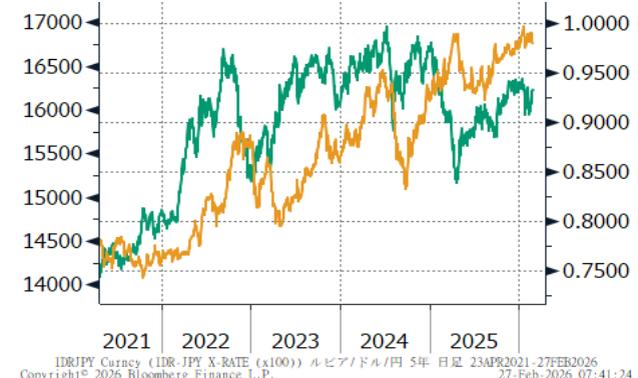
—ドル・人民元 (左軸) —人民元・円 (右軸)



—ドル・バーツ (左軸) —バーツ・円 (右軸)



—ドル・ルピア (左軸) —ルピア・円 (右軸)



IDRJPY Currency (IDR/JPY X-RATE (x100)) ルピア/ドル/円 5年 日足 23APR2021-27FEB2026  
Copyright © 2026 Bloomberg Finance L.P. 27-Feb-2026 07:41:24

出所：Bloomberg

◎注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/2/27

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ 年間為替見通し

		2026年								ポイント				
		3月		4～6月		7～9月		10～12月						
ドル円	レンジ	145	～	165	145	～	165	140	～	165	140	～	165	中長期的には構造的に円安が進行しやすい状況が継続する。FRBの新人事を巡り利下げ織り込みが大幅に進むことがあればドル安となりやすい場面も。
	期末値	155		155		155		155		155				
ユーロドル	レンジ	1.10	～	1.22	1.10	～	1.22	1.12	～	1.24	1.12	～	1.24	ドイツをはじめとするユーロ圏各国の財政拡張方針や米国からの資産逃避を受けて25年春より急速にユーロ高となった。一定程度ドル買い戻しの動きもあるが、ECBは利下げ局面を既に終了したとの見方が増加してきており、ユーロは引き続き堅調に推移しそうだ。
	期末値	1.18		1.16		1.18		1.18		1.18				
ユーロ円	レンジ	170	～	190	170	～	190	175	～	195	175	～	195	財政懸念がくすぶる中、引き続き増税等の議論が浮上しやすく上値の重い展開を想定。金融政策面でも日銀が利上げを模索し、ディカップリングが想定され、対円で上値を抑える。また米利下げが徐々に一服となり、対ドルでも上値は重くなるう。
	期末値	183		180		183		183		183				
ポンドドル	レンジ	1.32	～	1.37	1.32	～	1.38	1.30	～	1.36	1.29	～	1.35	財政懸念がくすぶる中、引き続き増税等の議論が浮上しやすく上値の重い展開を想定。金融政策面でも日銀が利上げを模索し、ディカップリングが想定され、対円で上値を抑える。また米利下げが徐々に一服となり、対ドルでも上値は重くなるう。
	期末値	1.35		1.35		1.33		1.32		1.32				
ポンド円	レンジ	205	～	212	205	～	212	202	～	209	200	～	208	米国によるベネズエラ大統領の拘束は、原油権益に絡んで米中対立が緊張化する懸念があったが、現状では膠着状態となっている。米中の貿易対立が緊張化する懸念はありながらも、FRBは労働市場とインフレのバランスを見ながら、今年中にターミナルに達することから、ドル/人民元の横ばいの推移が続いていく。
	期末値	209		209		206		205		205				
ドル人民元	レンジ	6.80	～	7.15	6.80	～	7.10	6.80	～	7.05	6.80	～	7.00	インフレに対する警戒感や労働市場の底堅さから豪中銀は利上げ継続。一方、日銀も利上げを模索し、豪ドル円は横ばい圏で推移
	期末値	6.90		7.00		7.00		7.00		7.00				
人民元円	レンジ	20.00	～	23.00	20.00	～	23.00	20.00	～	23.00	20.00	～	23.00	介入警戒もあり円売り圧力が徐々に緩和するも、観光業の回復や景気支援策がパーツの下支えに。
	期末値	22.50		22.14		22.14		22.14		22.14				
豪ドル円	レンジ	107.0	～	111.5	102	～	108	102	～	108	102	～	108	介入警戒もあり円売り圧力が徐々に緩和するも、観光業の回復や景気支援策がパーツの下支えに。
	期末値	108		106		106		106		106				
タイバーツ円	レンジ	4.80	～	5.05	4.60	～	5.00	4.60	～	5.00	4.60	～	5.00	介入警戒もあり円売り圧力が徐々に緩和するも、観光業の回復や景気支援策がパーツの下支えに。
	期末値	4.90		4.80		4.80		4.80		4.80				

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## ◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
3/2(月)		2月ISM製造業景況指数	(中) 2月製造業PMI	3/16(月)		1月製造業受注	(中) 2月生産・小売・投資
3/3(火)	10-12月期法人企業統計調査					2月小売売上高	
	10年債入札					3月NY連銀製造業景気指数	
	1月労働力調査			3/17(火)	20年債入札	20年債入札	(独) 3月ZEW景気指数
3/4(水)		2月ADP雇用統計	(中) 2月PMI	3/18(水)	2月貿易統計	FOMC (結果発表)	
		2月ISM非製造業景況指数		3/19(木)	1月機械受注	3月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	(欧) ECB定例理事会
		米地区連銀経済報告			植田日銀総裁定例会見		(欧) EU首脳会議 (~20日)
3/5(木)	30年債入札	1月貿易収支		3/20(金)	(春分の日)		
3/6(金)		2月雇用統計		3/23(月)			
3/8(日)		(夏時間開始)		3/24(火)	2月消費者物価指数	2年債入札	(欧) 3月PMI (速報値)
3/9(月)	1月毎月勤労統計 (速報)		(中) 2月CPI		40年債入札		
3/10(火)	10-12月期GDP (二次速報値)	2月中古住宅販売		3/25(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨(1/22~23開催分)	5年債入札	(独) 3月IFO企業景況感指数
	1月家計調査	3年債入札		3/26(木)		7年債入札	
3/11(水)	2月企業物価指数	10年債入札		3/27(金)			
	5年債入札	2月CPI		3/30(月)			
3/12(木)		2月PPI		3/31(火)	2月鉱工業生産	3月消費者信頼感指数	(中) 3月PMI
		30年債入札			2月住宅着工件数		
3/13(金)		10-12月期GDP (改定値)			2月労働力調査		
		1月個人所得・消費支出			2年債入札		

◎注意事項  
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## 中国の動向-主要トピックス

りそな銀行上海駐在員事務所

### 【1/30~2/5】

#### ◎ 中国企業の香港 IPO 熱継続、1 月の上場申請が前年 4 倍に急伸

中国本土企業による香港での新規株式公開（IPO）熱が続いている。今年 1月に香港取引所（HKEX）に上場申請を提出した企業数は 140 社に迫り、前年同月の約 4 倍の規模。大半を中国本土企業が占め、本土市場との重複上場を計画する企業も目立つ。資金調達ルートが多様化や事業のグローバル化、世界的なブランド認知度の向上などが狙いで、今後も香港上場を目指す中国企業が相次ぎそうだ。

### 【2/6~12】

#### ◎ 日本酒の対中輸出額が回復、25 年は 3 年ぶり増、首位を維持

日本酒業最大の団体、日本酒造組合中央会が発表した 2025 年の日本酒輸出実績によると、中国本土向けの輸出額は 3 年ぶりに前年比でプラスとなり、国・地域別で首位を維持した。数量も前年を上回った。25 年 11 月ごろから日中関係が急速に悪化する中、一部で通関が遅延するなどの影響がみられたが、輸出の数量や金額を大幅に減少させるほどの影響は出なかった。

## 主要経済指標

### <月次データ>

項目	単位	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1
実質GDP成長率	%	5.4	-	-	5.2	-	-	4.8	-	-	4.5	-
消費者物価上昇率	%	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	0	-0.4	-0.3	0.2	0.7	0.8	0.2
都市部調査失業率	%	5.2	5.1	5.0	5.0	5.2	5.3	5.2	5.1	5.1	5.1	-
輸出額	10億ドル	313.1	315.1	315.6	324.9	321.4	321.4	328.3	305.0	330.2	357.7	-
輸入額	10億ドル	211.1	219.3	212.9	210.8	223.9	219.8	238.0	215.1	218.6	243.6	-
経常収支	100万ドル	165,449	-	-	294,126	-	-	492,826	-	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,240.7	3,281.7	3,285.3	3,317.4	3,292.2	3,322.2	3,338.7	3,343.3	3,346.4	3,357.9	3,399.1
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.25	7.30	7.21	7.18	7.17	7.17	-	-	-	-	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

2026/2/27

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶” (上海からティータイム)

りそな銀行上海駐在員事務所

## ○中国各地域のGDP成長率と総額

各31省・直轄市・自治区（以下地域）の2025年実質GDP成長率が出揃いました。

全国平均（5.0%）を超えた地域は18地域、2024年からは4地域減少しました。

チベットが7.0%で首位、甘粛省が5.8%、河南省、河北省が各5.6%と続きました。

GDP総額は広東省が14兆5,800億元（320兆7,600億円）となり、37年連続で全国首位を維持しました。

以下、江蘇省・山東省・浙江省・四川省・河南省・湖北省・福建省・上海市・湖南省と続きました。

上位10地域の順位は、前年から変動がありません。

広東省のGDP総額は首位でしたが、成長率は3.9%に留まり、全国平均5.0%を大きく下回りました。

これは過去の過大な不動産投資の反動、伝統的な労働集約型産業の割合が他地域と比較して高いことが要因として考えられます。

2位の江蘇省は、成長が堅調で広東省との差は2024年の4,623億元から3,449億元まで縮小しました。

3位の山東省は、初めてGDP総額が10兆元（220兆円）を上回りました。

半導体、ロボット、バイオテクノロジー等の新興産業の成長が経済拡大の背景にあります。

安徽省は、政府支援策の後押しで、新エネルギー車を含む自動車等の最大生産拠点となっており、成長率5.5%と堅調に成長し注目を集めています。

2026年の各省GDP成長率目標が発表されました。

前年から引き上げたのは1地域、引き下げたのは21地域、横ばいは9地域です。

不動産の低迷、消費の鈍化や外需の見通し不透明などが目標の下方修正を行った背景であると考えられます。

△2025年の中国各地域GDP総額・成長率と2026年目標

順位	地域名	2025年 GDP総額	2025年 成長率 (%)	2026年 成長率目標 (%)
1	広東省	14.58	3.9	4.5-5
2	江蘇省	14.24	5.5	5
3	山東省	10.32	5.5	5以上
4	浙江省	9.45	5.5	5-5.5
5	四川省	6.77	5.5	5.5前後
6	河南省	6.66	5.6	5前後
7	湖北省	6.27	5.5	5.5前後
8	福建省	6.02	5	5前後
9	上海市	5.67	5.4	5前後
10	湖南省	5.53	4.8	5前後
11	安徽省	5.3	5.5	5-5.5
12	北京市	5.21	5.4	5前後

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

2026/2/27

◎注意事項をよくお読み下さい

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

### ◆2025年12月のタイ経済、前月から拡大

- ・タイ中央銀行は2025年12月の経済報告書で、タイ経済は前月から引き続き拡大したと発表した。
- ・製造業では、国内外の需要の回復や、一時的に操業を停止していた工場が通常操業に復帰したこと等を背景に生産が拡大した。
- ・民間消費は前月から上昇した。サービス分野では宿泊・飲食業を中心に政府の景気刺激策の効果を受けて拡大した。一方、外国人観光客の減少に伴い、観光収入は縮小した。
- ・民間投資については、機械設備や車両への投資が牽引し拡大した。建設分野は工業団地内の建設許可面積が増加した半面、住宅部門の建設許可面積は減少した。
- ・尚、タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）が発表した2025年通年の国内総生産（GDP）成長率は前年比+2.4%だった。前年の同+2.9%を下回った理由として、輸出は好調だった一方、個人消費が振るわなかったほか、観光業が伸び悩んだこと等が挙げられた。2026年のGDP成長率を+1.5%~+2.5%と予測した。

### ◆2025年の輸出額、過去最高更新

- ・タイ商務省によると、2025年の輸出額は前年比+12.9%の約53兆6,961億円相当と、過去最高を更新した。電子部品・電気機器の大幅な増加が寄与した。
- ・品目別では、主要工業製品が+17.4%だったものの、農産物・加工品が▲0.4%だった。
- ・一方、2026年の輸出は鈍化し、前年比▲3.1%~+1.1%と予測されている。マイナス要因としては、米国による関税措置の影響の顕在化や地政学的な緊張の高まり、パーツ高の進行を懸念している。

### ◆2026年の自動車生産台数見通し、150万台に上方修正

- ・タイ工業連盟（FTI）は1月28日、2026年通年の自動車生産台数の見通しを当初の145万台から150万台（前年比+3.1%）に上方修正した。内訳は、国内向けを50万台から55万台に引き上げ、輸出向けを95万台に据え置いた。
- ・国内販売では、外国直接投資（FDI）の増加や今後発足する新政権による景気刺激策の実施、タイ・カンボジアの停戦合意等がプラス要因になると見込んでいる。

## 主要経済指標

### <月次データ>

項目	単位	2025/3	2025/4	2025/5	2025/6	2025/7	2025/8	2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1
実質GDP成長率	%	3.1	-	-	2.8	-	-	1.2	-	-	2.5	-
消費者物価上昇率	%	0.8	-0.2	-0.6	-0.3	-0.7	-0.8	-0.7	-0.8	-0.5	-0.3	-0.7
失業率	%	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.8	0.8	-
輸出額	100万ドル	29,626	25,653	31,045	28,641	28,581	27,743	30,971	28,836	27,446	28,928	-
輸入額	100万ドル	28,363	28,688	29,639	27,417	28,259	29,708	29,696	32,272	30,172	29,280	-
経常収支	100万ドル	1,847	-1,344	-321	3,212	1,157	-225	2,233	-1,593	-584	3,100	-
外貨準備高	10億ドル	245.3	256.8	257.6	262.4	261.9	267.4	273.3	272.0	274.7	281.9	289.6
主要政策金利	%	2.00	1.75	1.75	1.75	1.75	1.50	1.50	1.50	1.50	1.25	1.25
対ドル為替レート	バーツ	33.8	33.8	33.0	32.6	32.5	32.4	-	-	-	-	-

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

### ◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

2026/2/27

# りそな マーケットフラッシュマンスリー (2026年3月号)

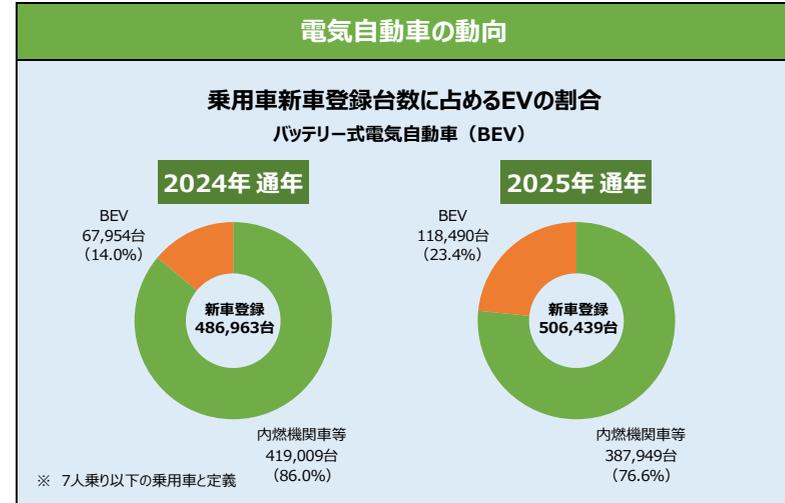
りそなホールディングス 市場企画部  
りそな銀行 国際事業部

## タイにおける自動車産業の動向

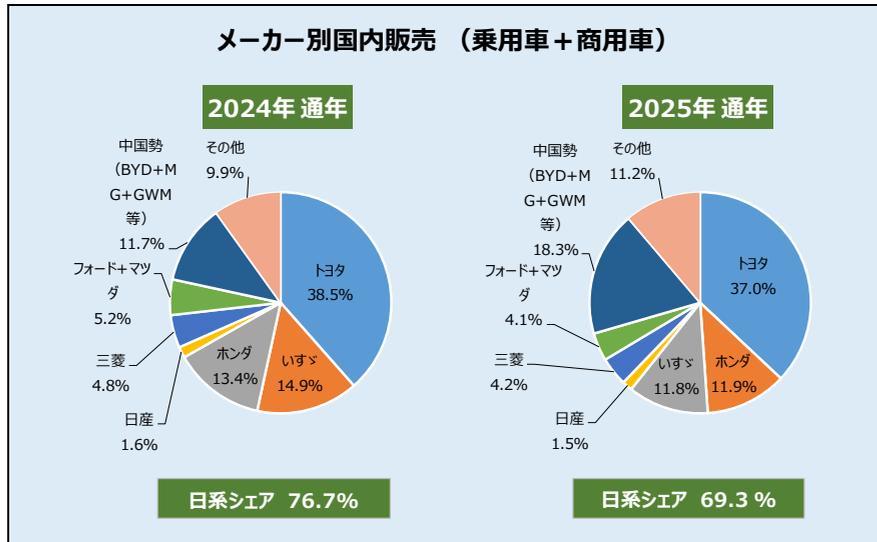
りそな銀行バンコック駐在員事務所

生産・国内販売・輸出の動向							
		2022年	2023年	2024年	2025年	前年比 (%)	12月
<b>【台数】</b>							
四輪	生産台数						
	乗用車	600,839	648,803	558,440	550,456	98.6	45,859
	商用車	1,282,676	1,192,883	910,557	905,113	99.4	67,996
	合計	<b>1,883,515</b>	<b>1,841,686</b>	<b>1,468,997</b>	<b>1,455,569</b>	<b>99.1</b>	<b>113,855</b>
	国内販売台数						
乗用車	265,069	292,505	224,148	239,236	106.7	26,667	
商用車	584,319	483,275	348,527	381,930	109.6	48,454	
合計	<b>849,388</b>	<b>775,780</b>	<b>572,675</b>	<b>621,166</b>	<b>108.5</b>	<b>75,121</b>	
輸出台数	1,000,256	1,117,539	1,019,213	935,750	91.8	84,963	
二輪	生産台数	2,015,940	2,120,738	1,887,208	1,972,902	104.5	161,304
	国内販売台数	1,792,016	1,856,814	1,683,239	1,711,846	101.7	134,364
	輸出台数	1,034,840	822,608	938,762	893,198	95.1	77,842
<b>【完成車輸出金額】(百万バーツ)</b>							
四輪		619,348	719,992	699,163	621,662	88.9	53,679
二輪		73,729	68,589	63,969	61,596	96.3	5,192

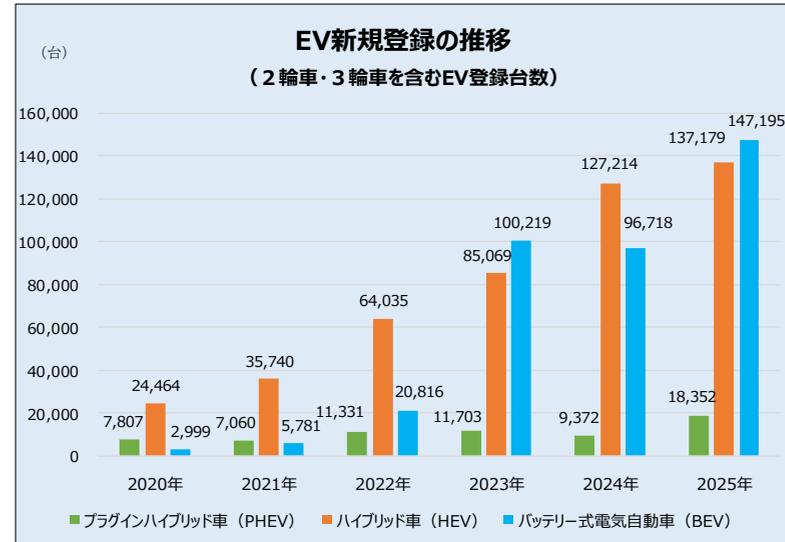
出所：タイ工業連盟 (FTI)



出所：タイ運輸省陸上運送局のデータを基に作成



出所：タイ国トヨタ自動車のデータを基に作成



出所：タイEV協会、タイ運輸省陸上運送局

◎注意事項  
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。